

大明 大明小学校 校長室から

令和2年3月3日

No. 64

文責 校長 飯久保一男

臨時休業

新型コロナウイルス感染症の対策として、臨時休業をすることは、国・県・市の指示でやむをえません。

南アルプス市教育委員会と市内小中学校の22校の校長は2月28日（金）と3月2日（月）の2日間、様々な話し合いを重ねて、学校が休業する中でも、子どもたちにとってどういう体制をつくり、どういう対応をすることがいちばんいいことなのか、保護者の皆さんにとって納得いただける形はどういう形なのかを考えました。

安倍首相の要請から、ほとんど時間のない中、また、今日には様々な情報を提供できるよう、市教委も文書を作成してくれましたし、本校教職員も打ち合わせを重ねて、学校からのお知らせや学年からのお知らせ、休業中の学習課題を作成しました。

まさか、こんな形で1年が終わろうとは考えてもいませんでした。卒業式へ向けて計画していたことなどもすべて考え直すことになりましたし、担任は、学年末へ向けて様々な取り組みや楽しい活動なども考えていたはずですし、私も、この通信を残りの期間でどんな内容で出していこうか構想を練っていましたが、無駄になってしまいました。

どの子にとっても、学校で過ごす3月がほとんどなくなってしまったことは、残念なことだと思います。特に、卒業を控えた6年生にとって、小学校で過ごす最後の月がこんな形で終わりになることは、さみしいことだと思います。また、卒業式ができるのか、そのための練習はできるのか、できたとしても保護者は参加できるのかなど、大きな不安があったことと思います。

事実、テレビでは、体育館を使わずに、放送で卒業式を行ったとか、保護者の参加も下級生の参加もなしの卒業式を行ったということが報道されていました。

市教委と22校の校長は、卒業式は、時間を短縮をし、規模を縮小するという指示のある中、できるだけ子どもたちにとって、望ましい形の卒業式にしたいと話しました。来賓の参加をなしにして、残念ながら、下級生の参加もなしにする代わりに、保護者の参加は認めるという形で何とか折り合いをつけることができました。理想の形ではありませんが、この状況の中では、卒業生も保護者も納得できる形で卒業式ができると思っています。今年の卒業式は、6年生、保護者、全教職員が参加の卒業式という形をとらせていただきます。下級生にとって、尊敬する6年生の卒業式、未来の自分たちの姿を想像する今年の卒業式に参加できないことは残念なことだと思いますが、そこだけは勘弁してください。



また、卒業式の練習する時間も、2日間だけですが、設定する許可をもらうことができました。短い練習時間しかないのですが、そこに集中して、今年の6年生の卒業にかける思いのたけを表してもらえたらと思っています。

**そして、コロナウイルスなんかには負けずに、
立派に卒業式をやりきったすばらしい6年生として、
私たち教職員の心にいつまでも残る卒業式にしてもらいたいと強く願っています。**

また、県の指示ですが、保護者が就労のため、かつ、祖父母などの大人が、日中の対応ができない場合の1～3年生と特別支援学級所属在籍の子どもを学校で受け入れることにも対応します。

さらに、健康安全確認日として、学年ごとに登校する日を設けることもできることになりました。担任が週に1回くらい家庭訪問をしたり、教職員が毎日地区をパトロールしたりすることも考えていましたが、週に1回は子どもたちの顔が見られるということは、私たち教職員にとっては安心できることになります。

保護者の皆さんにとっては、急な臨時休業ということで、大変な面が多くあると思いますが、ご理解とご協力をお願いします。

他の校長との話の中で、保護者からの質問が多くて答えに困る、いろいろと聞かれて困っているという話がありました。大明小の保護者の皆さんは、とても冷静に対応していただいていると思っています。しかも、学校にそういったことで電話をかけてくるなどありません。**大明小の保護者すばらしい!!**

9年前の東日本大震災を乗り越えてきた日本人、

6年前の山梨県の大雪も乗り越えてきた山梨県人なら、

コロナウイルスなどには絶対負けないと信じています。



“ダメな子”とか“わるい子”なんて子どもは、ひとりだっていないのです。

もし、そんなレッテルのついた子どもがいるとしたら、

それはもう、その子たちをそんなふうに見ることしかできない大人たちの精神が貧しいのです。

手塚 治虫